

第2章 なにわ町方あきんど会について

本章では、研究対象としている『なにわ町方あきんど会』について説明する。(以下「あきんど会」) あきんど会が結成されるきっかけになったイベントから、現在までのあきんど会の活動、そして会員の属性などについて述べる。

2-1 なにわ町方あきんど会とは

『なにわ町方あきんど会』が結成されたのは1992年10月である。当時あきんど会は大阪市環境保健局を主体としたウォーキング事業の一つとして存在していたが、大阪市が事業を打ち切ることになり一時存続の危機に至る。その後あきんど会の会員や事務局の話し合いの末に、大阪市事業から独立し、会費制任意団体として再出発した(1993年9月)。

あきんど会の会員は2002年9月現在で26人であるが、実際にまち歩きをしている主要なメンバーは10人程度である。いずれも大阪在住であり、30代～80代という幅広い年齢層である。また、主要メンバーの多くは大阪市環境保健局の『みどりと生き物会議』(現地球館パートナーシップクラブ)に所属しており、植物の観察や調査の目的でのまち歩きを行っているため、あきんど会会員の中には植物の名前に詳しい方が多い。

2-2 なにわ町方あきんど会・活動の背景

あきんど会が結成された背景として、大阪大学工学部環境工学科と大阪市環境保健局の主催による「上町台地プロジェクト」がある。このプロジェクトは、「大阪の中心である上町台地のアイデンティティという点に着目し、上町台地がかつて持っていた歴史的、空間的な文脈を掘り起こしたり、現在の大阪を生きる人々による新たな意味づけを行うこと」¹⁾を目的としている。あきんど会の活動の中心である“名付け”は、このプロジェクトの第1回/第2回のアンケートですでに行われていた。第4回ではあらかじめ「坂」という対象が決められた形で歩きながら“名付け”が行われた。その後第3回環境再発見ウォーキングではいくつかの環境資源のテーマを決め、区域内を自由に歩き回りテーマの環境資源に“名付け”するという現在のスタイルに近い形をとっている。そしてこの第3回環境再発見ウォーキングのスタッフを中心に結成されたのが『なにわ町方あきんど会』である。

表 1 各イベントの名称と参加人数

日付	上町台地プロジェクト	大阪市	あきんど会との関連	参加人数
1990.3.21	九輪の台地／春分の日	—————	—————	60
1990.9.23	九輪の台地／秋分の日	—————	—————	220
1991.3.21	上町台地永めくり	第1回環境再発見ウォーキング	—————	230
1992.3.20	おしるや羅渡	第2回環境再発見ウォーキング	—————	250
1992.9.23	—————	第3回環境再発見ウォーキング	上町環境算盤勘定（あきんど会結成）	36
1993.3.7	—————	第4回環境再発見ウォーキング	環境あきんど手書き地図・名付け編	200

2-3 あきんど会の活動内容

『なにわ町方あきんど会』は、会則の中に次の内容を盛り込んでいる。

「本会は、大阪のまちなみを中心に、文化、人間性など幅広い調査活動を商いとみなし、環境再発見を実践し広めながら、会員相互のコミュニケーションと友好を図ることを目的とする。」²⁾この内容は1994年の第1回目の総会から現在に至るまで変わっていない。今年度（2002年度）の会の基本方針では、更に「広く社会への発信と交流」³⁾を行い、活動を楽しみ続けられるよう問題点を改めて運営していくという内容を加えている。

現在のあきんど会の活動内容として、大きく次の3点が挙げられる。

- 1)「引札」()づくりによる調査、報告活動の活発化
- 2)会誌『まちなみ』の発行
- 3)引札の整理と管理

(「引札」とは…あきんど会員がまち歩きをする中で見つけた環境資源を記録するカードである。)



資料 1 引札の一例

あきんど会という名前は第3回環境再発見ウォーキング「上町環境算盤勘定」に由来する。このイベントでは参加者をいくつかのグループに分け、それぞれのグループがまちを歩き(＝仕入れ)、環境資源(＝商品)を見つけて名前を付けてから、それらの商品売り

込み、せりをして勝敗を決めるという「あきない」に見立てた。1)の「引札」づくりとはつまり仕入れから引札による商品の報告、を指す。この引札づくりがあきんど会の活動の中心である。

2)の『まちんど』は、ほぼ月に1回発行される会誌である。会員から届いた引札の発表の場であると共に、コラムやイベントの報告、お知らせや会員の思ったことなど内容は様々である。2002年6月でその号数は104号にまでのぼる。

また3)引札の整理、管理については2001年9月の総会の時に会員の中で整理法を決定した。それは全ての引札に「会員番号・通し番号(会員毎)・年度・地域番号」を付けファイリングする⁴⁾という方法である。引札一枚につき一枚のカードに、「商品名」「宣伝文句」「場所」「発見日」を書き、写真は別にまとめて会員毎のファイルを作る保存方法である。また引札を簡単に検索できる方法として今後も活用できるように、引札データベースを作成した。その他にも他団体との交流やイベント、行事へ積極的に参加したり、メーリングリストを活用して連絡を取り合い相互のコミュニケーションを図っている。

あきんど会は大阪を拠点としてはいるが、活動が多様化するにつれ近年では大阪以外でも仕入れを行う。(表2)会員の中には海外で仕入れをする例も見られた。

2-4 あきんど会会員の属性

ここではあきんど会会員の属性(性別、住所、年齢、活動年数)について述べる。まず、あきんど会に参加している方の男女比であるが、1994年度は女性の方が人数が多かったが1997年度以降逆転し男性の方が多くなっている。しかし会員全体の割合では男性の方が多いが、実際にまち歩きをする主要メンバーは女性の方が多い。下図は1994年から現在までの会員数の変化である。

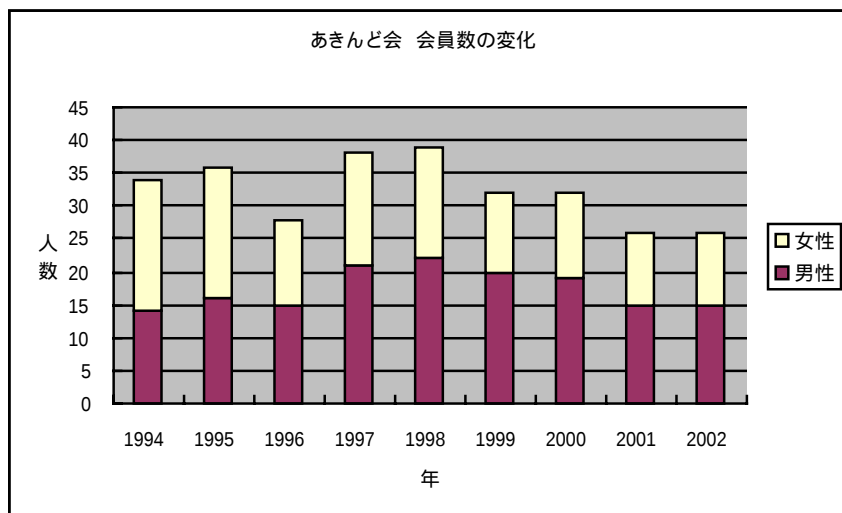


図 1 あきんど会 会員数の変化

次に会員の住所であるが、主に大阪市内であり、他に吹田市など大阪府内の方もいる。その他にも富山、京都、福岡、滋賀などの会員もいるが、主に活動の主体となっているメンバーは皆大阪在住の会員である。

会員の年齢に関しては主要メンバー（引札の報告が多い方）に限り尋ねた。30代が1名、40代が2名、50代が2名、60代が1名、70代が3名、80代が1名である。

更に活動年数であるが、現在の主要メンバーのほとんどがあきんど会結成当時の参加者である。

[参考文献および引用文献]

¹⁾吉岡哲：環境計画における《名づけ》概念の考察と手法化に関する研究,大阪大学大学院環境工学専攻修士論文,p74(1994)

²⁾第1回総会次第,なにわ町方あきんど会,p4(1994)

³⁾第1回総会次第,なにわ町方あきんど会,p4(1994)

⁴⁾なにわ町方あきんど会:まちんど,p1(2001)